

知床世界自然遺産地域における次期総合評価書の枠組み(案)一覧 資料2-2

評価の対象	評価の観点	仮のNo.	評価項目	評価方法・評価基準・評価の考え方	評価に用いるモニタリング項目	関連するモニタリング項目等	評価担当WG/AP
以下は現行計画および今年度9月の科学委員会資料や議論を踏まえ、再整理したもの。各WG/APで該当する項目を精査。							
(1) 保全状況(状態)	①世界自然遺産として登録された基準(クライテリア)である知床の生態系及び生物多様性が維持されているか	A	<p>(Ⅰ)</p> <p>特異な生態系の生産性が維持されているか(クライテリア(x)生態系)</p> <p>(Ⅱ)</p> <p>海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されているか(クライテリア(ix)生態系)</p> <p>(Ⅲ)</p> <p>遺産登録時の生物多様性が維持されているか(クライテリア(x)生物多様性)</p>	<p>※各WG/APにおいて評価項目に対応する評価方法・評価の考え方(何を指標として、どのように評価するか)を検討の上、記載</p> <p>※左記評価に用いるデータを記載</p> <p>3アザランの生息状況の調査 4海域の生物相及び生息状況(浅海域定期調査) 5浅海域における貝類定量調査 6ケイマフリ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査(条件付き継続) 7スケトウダラの資源水準・動向</p> <p>4海域の生物相及び生息状況(浅海域定期調査) 5浅海域における貝類定量調査 6ケイマフリ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査(条件付き継続) 7河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所及び産卵床数モニタリング 8知床半島全域における植生の推移の把握(森林植生/海岸植生)</p> <p>3アザランの生息状況の調査 4海域の生物相及び生息状況(浅海域定期調査) 6ケイマフリ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査 8知床半島全域における植生の推移の把握(森林植生/海岸植生)</p> <p>9稀少植物の生育・分布状況の把握 11陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況の把握 12陸上鳥類生息状況の把握 13中小型ほ乳類の生息状況調査 14広域植生図の作成 16知床半島のヒグマ個体群 18淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況(外来種侵入状況調査を含む)(モニタリングは継続) 23シマフクロウのつがい数、繁殖成功率、死亡・傷病個体と原因調査 24年次報告書作成による事業実施状況の把握 25年次報告書作成等による社会環境の把握 ③「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握 ①「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握 ①「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握</p>	<p>2海洋観測ブイによる水温の定点観測 ①航空機、人工衛星等による海水分布状況観測 ③「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握 ⑤スケトウダラ産卵量調査 ⑥トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性 ⑦シヤチの生息状況の調査</p> <p>⑨全道での海フシ類の越冬個体数の調査(条件付き継続)</p> <p>24年次報告書作成による事業実施状況の把握 25年次報告書作成等による社会環境の把握 ③「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握 ①「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握</p>	<p>評価担当WG/AP</p> <p>※次期計画での位置づけについて検討。検討結果によっては評価担当とならない場合もあり。</p> <p>海域WG</p> <p>エゾシカ・ヒグマWG(No.16) 河川AP(No.17)</p> <p>エゾシカ・ヒグマWG 海域WG(No.3,4,6,⑧) 河川AP(No.18)</p> <p>※シマフクロウは保護増殖事業検討会で評価</p>	
(2) 環境圧力・観光圧力(状態、動向)	(新規) 知床の世界自然遺産としての価値と関係性があると考えられる要因による影響はみられるか	D	<p>(Ⅳを分縮)</p> <p>遺産地域における気候変動の兆候はみられるか</p> <p>(Ⅴを分縮)</p> <p>知床の世界自然遺産としての価値に対する気候変動の影響もしくは影響の兆候はみられるか</p> <p>(Ⅵを改変)</p> <p>知床の世界自然遺産としての価値に対するレクリエーション利用等の人為的活動による影響もしくは影響の兆候はみられるか</p>	<p>18オショロコマの生息数、外来種(淡水魚類)の生息状況、河川水温(再検討の余地) 26気温、降水量、日射量、積雪深等</p> <p>9高山植生、群落の組成・植生高、食痕率・採食量 14広域植生図の作成 18オショロコマの生息数、外来種(淡水魚類)の生息状況、河川水温(再検討の余地)</p> <p>※その他個体数変動、分布域の変化、群集構成種、種多様性、群集タイプの変化、生物季節の変化に関する指標として設定できるものを各WG/APで追記</p> <p>18淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況(外来種侵入状況調査を含む)(条件付き継続) 26気象観測</p> <p>※気温、地表温、地温については、いくつかの植生プロットとセットで、既存観測施設又はデータロガーによる新規観測による取得を検討</p>	<p>2海洋観測ブイによる水温の定点観測 ①航空機、人工衛星等による海水分布状況調査</p> <p>9稀少植物(シレトコスミ)の生育・分布状況の把握 ※Ⅳの評価項目としては不適当であり関連情報として扱うことで整理 ⑥トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性 ⑦シヤチの生息状況の調査</p>	<p>海域WG(No.2,①) 河川AP(No.16) 科学委(No.26)</p> <p>海域WG(No.3) エゾシカ・ヒグマWG(No.8,14) 河川AP(No.18)</p> <p>エコツーWG 海域WG(No.6) エゾシカ・ヒグマWG(No.15)</p>	
(3) 管理/対策	(3-1) 管理の実施状況(実績)	G	<p>(Ⅶを改変)</p> <p>観光(ヤレクリエーション)などの人による利用と自然環境保全が両立されているか。また、人の利用による環境影響を可能な限り低減するための管理努力が行われているか</p> <p>(新規)</p> <p>ユネスコ世界遺産センター及びIUCNによる現地調査に基づく勧告への対応は進んでいるか(それぞれの勧告に対する対応の進捗状況は順調か)</p>	<p>19管理と取組の実施状況 20知床エコツアーリズム戦略の基本方針に沿った事業の実施状況、利用者の増減、客層の変化、自然環境への懸念 21各利用拠点等の利用者数</p> <p>19適正利用に向けた管理と取組 20適正な利用・エコツアーリズムの推進 21利用者数の変化</p> <p>24年次報告書作成による事業実施状況の把握</p>	<p>24年次報告書作成による事業実施状況の把握 25年次報告書作成等による社会環境の把握(登山者による高山植生への悪影響の把握)</p> <p>25年次報告書作成等による社会環境の把握</p>	<p>エコツーWG</p> <p>海域WG 河川AP エゾシカ・ヒグマWG</p>	
(3-2) 対策による効果(動向)	③知床世界自然遺産管理計画に基づく管理ができています	I	<p>(Ⅷ)</p> <p>遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続可能な水産資源利用による安定的な漁業が両立されているか</p>	<p>3アザランの生息状況の調査 6ケイマフリ、ウミネコ、オオセグロカモメ、ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査(条件付き継続) 7河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所及び産卵床数モニタリング(継続) ④スケトウダラの資源水準・動向</p> <p>2海洋観測ブイによる水温の定点観測 ①航空機、人工衛星等による海水分布状況観測 ③「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握(※プリを追加) ⑤スケトウダラ産卵量調査 ⑥トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性 ⑦トドの被害実態調査 ⑩海中の石油、カドミウム、水銀などの分析(評価項目としては再検討の余地。モニタリングは継続) ⑪シヤチの生息状況の調査</p>	<p>2海洋観測ブイによる水温の定点観測 ①航空機、人工衛星等による海水分布状況観測 ③「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握(※プリを追加) ⑤スケトウダラ産卵量調査 ⑥トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性 ⑦トドの被害実態調査 ⑩海中の石油、カドミウム、水銀などの分析(評価項目としては再検討の余地。モニタリングは継続) ⑪シヤチの生息状況の調査</p>	<p>海域WG 河川AP(No.17)</p>	
		J	<p>(Ⅸ)</p> <p>河川工物による影響が軽減される等により、サケ科魚類の再生産が可能な河川生態系が維持・回復しているか</p>	<p>17遡上数、産卵床数、河川工物物の遡上及び産卵への影響 18オショロコマの生息数、外来種(淡水魚類)の生息状況、河川水温(再検討の余地)</p> <p>17河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所及び産卵床数モニタリング 18淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオショロコマの生息状況(外来種侵入状況調査を含む)(条件付き継続)</p>	<p>河川AP</p>	<p>河川AP</p>	
		K	<p>(Ⅹ)</p> <p>エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないか</p>	<p>7エゾシカ個体数調整実施地区における植生変化の把握(森林植生/草原植生) 8知床半島全域における植生の推移の把握(森林植生/海岸植生)</p> <p>10エゾシカ主要越冬地における生息状況の把握(航空機カウント/地上カウント) 11陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況の把握 12陸上鳥類生息状況の把握</p>	<p>エゾシカ・ヒグマWG</p>	<p>エゾシカ・ヒグマWG</p>	